

古民家新聞

匠を感じる住まい

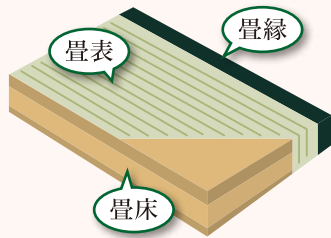
vol. 28

秋分も過ぎ、気温も食も秋を感じる頃となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

これから冬に向けて湿気が減りカラッと心地よい季節になりますね。そんな季節にお勧めの畳のお手入れについて今回はご紹介いたします！

今や懐かしき！ 秋の畳干は いかがですか？

畳干しをしている光景、最近ではほとんどみませんね。でも、畳の部屋、今でも結構ありますよね、干してお手入れしなくて大丈夫なのでしょう。そこで畳屋さんにごこの疑問をぶつけてみました！結論は、「畳床にワラを使用している昔ながらの重い畳は干した方が良い」とのことでした。畳干しをする主な理由は ①湿度により虫がつく ②湿気により畳に使用している糸が切れやすく傷みやすくなる ③畳の目に土ほこりが蓄積する、



畳の目に土ほこりが蓄積する、

【畳干しの方法】

1 畳を元の位置に戻せるように畳裏に印や方位をメモする。チョークなどで畳の角に★や◎などのマークをつけ、その角がのつていた床にも同じマークをつけておくとうっかりやすい！

2 良く晴れた日に畳を屋外に干す。普段日光にさらされない畳裏を明るい方にむけてブロックなどの上に立てかけましょう。傷むので、直射日光にあてるのは30分以下にしましょう。あとは陰干しで、布団を干すのと同じくらいの時間が目安。

3 干している間、畳のあつた部屋の照明や梁の上のホコリをはたきで落として掃除機をかけるとなおよいでしょう。

4 畳が良く乾いたらはたきなどで細かいほこりを落として、もとの位置に向きも注意して戻して完了です。

お手入れで 畳と長い付き合いを

こんなに手間はかけられない方は、畳を浮かせて空き瓶などを挟んで、部屋の換気をするだけでも効果があります。最近多く使われる畳床にスタイロフォームなどを使用した「スタイロ畳」「建材畳」と呼ばれる畳もこちらの簡易的な干し方でOKです。春と秋の年2回行うのがベストです。

要注意は、畳にカーペットなどを敷いている方。湿気やダニで不健康な部屋になってしまう可能性があります。頻繁にカーペットと畳の間に風を通しましょう。「○○と畳は新しい方が良い」という諺もあり、新しい畳はさすがに新しく気持ちが良いものであるということを経験するよう、5〜8年が経過している畳は、畳表の裏返しや表替えを視野に入れても良いかもしれません。

畳表のイグサや畳床のワラは、部屋の空気の調湿作用がある、心地よい空気環境を整えてくれます。お手入れをして畳と長い付き合いができると思います。

お知らせ

三重県では来月10/22(土)午後15時に古民家鑑定士資格者の方に向けて「古民家鑑定士実技講習」を津市美里町にて開催予定です。宮大工さんに古民家の見方をレクチャーしていただきます。ご希望の方は、当協会までお問い合わせください。



お問い合わせは

一般社団法人 三重県古民家再生協会

〒510-8016 三重県四日市市富州原町10-6 TEL059-366-3833 FAX059-361-1717 mail info@tap-s.com

kominka-mie.org